

漫湖水鳥・湿地センター

たよひ

2005年3月20日発行

No. 21



アイ!寒いぞー
「はじめての野鳥観察」パート3 3月6日



鳥の声が出る図鑑を使い、耳から鳥を感じました。



とても寒い日で、参加者が少なかった。しかし、鳥たちは元気にえさを食べているのを観察できました。



これは、なんででしょう?そう、鳥の骨ですこれを持ってください。どうですか?とっても軽いでしょう?

魚も寒くて、死んじゃった〜



この日は、リュウキュウドロクイも死んでしまうほど寒かった!

みんなで漫湖をきれいにしよう!

〜チュラカーギー作戦!〜

2月26日に多くの人に参加し、漫湖のごみ拾いをしました。



自転車、プラスチック、缶…。
いろんなゴミが漫湖にはあるなあ。上流からも流れてくるものもあるみたいだ。
漫湖のゴミはみんなの問題!



クottsラヘラサギはどこへ行くのかな？ ～渡りの経路を衛星を使って調査開始！～

捕獲され、送信機をつけられたクottsラヘラサギ。7日、豊見城市の与根遼水池（環境省沖縄奄美地区自然保護事務所提供）



移動経路を解明へ

クottsラヘラサギ 豊見城で放鳥
環境省が再調査

環境省自然環境局沖縄奄美地区自然保護事務所（池田善一所長）は7日、豊見城市の与根遼水池で世界的に希種の渡り鳥、クottsラヘラサギ十羽を捕獲し、電波送信機を用いた移動経路調査を開始した。

クottsラヘラサギは、絶滅の恐れのある野生動物の生息状況を把握し、環境省レッドデータブックに、最高ランクの絶滅危惧Ⅰ類に分類されている。世界で十羽程度しかいないといわれている希少種。二〇〇二年度から日本と中国の二国間で共同調査が始まり、クottsラヘラサギの渡りの経路を人工衛星を使って追跡している。

今回は安全が確認できる。連絡先は日本野鳥の会（JCS）の自然保護部（042-503-0801）。

3月8日 琉球新報

クottsラヘラサギの渡りの経路を解明するため、3月7日に環境省が捕獲調査を行った。調査は日本野鳥の会が中心となり、山階鳥類研究所が衛星送信機やカラー足輪を装着した。捕獲後の鳥を洗浄するなどの作業には、沖縄野鳥の会や沖縄県立博物館などの有識者が協力した。その他、獣医師たちによって傷病個体が発生した場合を考え、獣医師のチームが結成され、日本大学、岐阜大学、国立環境研究所によるフンや血液を使った研究資料採集も行われた。

地元と色々な研究機関が協力したこのプロジェクトは、スムーズに行われた。今後の研究結果が期待される。



捕獲した10羽にカラーリングをつけました。そのうち3羽には、衛星の送信機をつけました。



クottsラヘラサギを採血しました。性別、住血原虫などを調べます。



クottsラヘラサギのフンや血液などは、このように実験室に持ち帰って研究に使用します。（写真：岐阜大生）



具志の干潟で放鳥！
さあ、どこをかって繁殖地へ行くのかな？

インタープリター研修会 in ヤンバルに参加して思うこと」

臼井 ルリ子 (ボランティアスタッフ)

桜の花がちらほら咲きはじめた、一月の末四日間の日程で、周りを山々に囲まれ、きれいな水の川が流れ、水車があり、耳を澄ますと、ヤンバルクイナの鳴き声が聞こえ、昔なつかしい自然がいっぱい残っている、のどかな奥という集落で行われました。

今、私が一番求めていることが、この研修会で得られるのではないかなあという期待感と「インタープリテーションにおけるファシリテーション」今まで耳にしたことがない不思議な言葉に対する好奇心と、不安感とが入り混じっての参加でした。

講師が二人とも、アメリカの方でしたので講師が英語で話したことを通訳の方が日本語で話すという講義の進め方でした。

そのやりとりの間があったからでしょうか？乾いた砂にゆっくり水がしみ込むように、私の心に静かに深く伝わって参りました。不安感は消え、私の好奇心を十分に満たしてくれる、講義内容でございました。

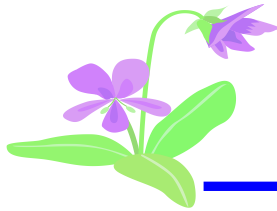
初日に早速宿題が出されました。奥の集落をインタープリテーションによるガイドウォークを六分間で行うこと、テーマは自由とのことでした。緊張の中、二日目の朝を迎えました。参加者は四班に分かれ(一班に十五名位)ガイドウォークが実施されました。

当たった人は自分がガイドしたい場所へ移動しガイドウォークを行います。一人が終わると講師の方がそれに対して批評およびアドバイスを下さると言う形で進行していきました。専門知識が豊富な方、小道具を使ったり、ジェスチャーを交えたり、声に強弱をつけたり、宇宙を感じさせるストーリーがあったり、すばらしいガイドウォークをたくさん聞くことができましたことは、私にとって幸せでした。「インフォメーションと、インタープリテーションは全く異なるものである。」ということを実感することができました。それと同時に、(私は平成9年より沖縄県観光ボランティアガイド友の会に属しておりまして、依頼がある度にガイドをして参りましたが) 今までのガイドの仕方を改善しなければいけないことが、沢山あることに気付かされました。

私の期待通り、実りの多い4日間でした。このようなすばらしい研修会に参加させていただきありがとうございました。事務局の皆様へ感謝申し上げます。

今後は、この漫湖水鳥・湿地センターを訪れてくださる、特に県外の方々に市街地に近い都市型の湿地帯でありながら、マングローブがおい茂り、シギやチドリ等の渡り鳥たちがのんびりと羽を休め、水鳥たちの国際交流の場となっている漫湖や、美しいとよみ大橋などをインタープリテーションによるガイドウォークで紹介することができればと心密かに思っている今日この頃でございます。





さわやかな渡り鳥、南の風に吹かれて石垣島へ

—靖子さん退職に寄せて—

広川 ヨシ子

「この子(鳥)はね、北の国から渡ってきたんだよ。すごいでしょ」と、大型画面にリアルに映し出される漫湖のようすを、明るい声で説明する靖子さん。北海道生まれのウチナー嫁※。ヤンバルクイナに誘われてきた陽気なタンチョウヅルです。

彼女とであったのは、漫湖水鳥・湿地センター仕事始めの日でした。

「なんとはっきりした子なんだろう。」

今時の若い子は・・・と思ったのが本音でした。

あれから2年、一緒に仕事をしている中で、鳥についての知識があり、そして仕事をてきぱきと処理していく力、「すごい」と思いました。

時として、負けん気が強く、気付きの面で、「う～ん」と思う面も見受けられましたが、しかし、アドバイスをすると、いやな顔も見せず、実に、素直にアドバイスを受け入れ、自分を絶えず向上させる態度、これがまた、周囲をさわやかにしました。

彼女は、まるくなりました。(太った意味ではありません)

見学に来た保育園や幼稚園生の前で、パフォーマンスをして、こどもたちを喜ばせた彼女、毎月の通信、年報発行、会計処理、それこそセンターオープンの立ち上げの中心となって働いてくれました。

私的な面では、ご主人と野生生物保護と多忙な日々を楽しく過ごしています。

私にとっては、短い付き合いでしたが、彼女から学ぶところが多い実りある2ヵ年でした。

靖子さん、このウチナーで、地域の人たちや先輩から、いろいろなことを学び吸収し、豊かに感性を磨き、素敵に環境や、特に野鳥について語り広めてくださいね。

2ヵ年、本当にご苦労様でした。ありがとうございます靖子さん！感謝申し上げます。

再び、千の風にふかれて、漫湖に渡って来る日を待ちつつ！

お体に気をつけられて、いってらっしゃい

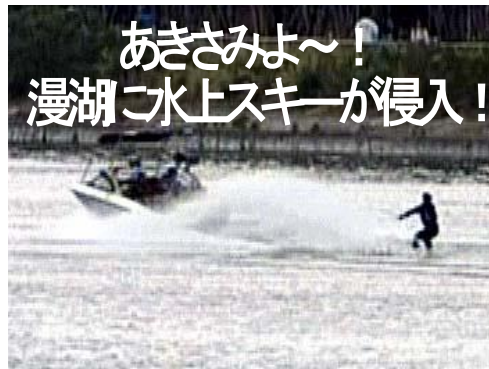


※ウチナー・・・沖縄

漫湖水鳥かわら版21 ~渡りの準備開始！2月~

	羽数	先月との比較
ゴイサギ	3	↑
ササゴイ	1	↑
ダイサギ	9	↑
チュウサギ	4	↑
コサギ	8	→
アオサギ	33	↑
クロツラヘラサギ	3	↑
オナガガモ	28	↑
カルガモ	6	↑
ミサゴ	2	→
バン	4	↓
シロチドリ	29	↓
オオメダイチドリ	1	↑
ムナグロ	147	↓
ダイゼン	21	↓
ハマシギ	1	↓
アカアシシギ	21	↓
アオアシシギ	19	↓
コアオアシシギ	3	↓
キアシシギ	3	→
イソシギ	12	↓
オオソリハシシギ	3	→
ダイシャクシギ	11	↓
チュウシャクシギ	5	↑
タシギ	2	↓
ユリカモメ	1	→
カワセミ	2	↑
キセキレイ	1	↓
ハクセキレイ	5	↑
合計	389	↓

2月の最大個体数
先月の個体数との比較
↑増加 ↓減少 →同じ



あきさみよ～！
漫湖に水上スキーが侵入！

2月5日5時過ぎに、漫湖の干潟にて水上ボードが侵入してきました。6日、9日と続けて来ました。どうやらここがラムサール条約登録湿地とは、わからないようでした。

那覇市が水上スキーの方と話をしたため、その後はこのような事はありませんでした。今回のことは、ラムサール条約の啓蒙活動とルール作りの必要性が浮き彫りとなったと思います。

HELP!!
クロツラヘラサギがケガをしているよ



左羽骨折し、保護されたクロツラヘラサギ。9日午後7時すぎ、豊見城市内の病院で撮影。

クロツラヘラサギ保護

豊見城市内一帯には、二回入る。クロツラヘラサギは、この地域に生息している。クロツラヘラサギは、この地域に生息している。クロツラヘラサギは、この地域に生息している。

左羽骨折を手当て

今月に入り漫湖に飛来



2月8日にセンターのライブカメラより、クロツラヘラサギがケガをしているのを発見しました。写真を獣医師の方々にメールをしたところ、9日に心配して見に来てくれました。環境省と獣医師の判断により、飛べなくなったクロツラヘラサギを急遽捕獲し、近隣の病院へ運びました。原因は、電線でしょうか？人間社会のもたらした被害者です。

<つれづれなるままに・・・管理日誌より>

- 2月5日 久しぶりにクロツラヘラサギ登場！団体さん
に大サービス。
- 2月6日 カモメの姿がなくなった。センターの桜が開
花した。
- 2月8日 クロツラヘラサギがケガをしている！ライ
ブカメラで発見。どうするべきか？

ようこそ! 漫湖水鳥・湿地センターへ

総入館者数

40,436 人



○利用団体2月○

幼稚園・保育園
こざくら保育園
つばみ保育園
小学校
とよみ小学校2年生
中学・高校
沖縄尚学高等学校
仲井真中学校1年生
大学
愛知教育大学
その他
沖縄市福祉プラザ児童センター
クラブツーリズム(5回)
南部広域観光講座

2月の入館者数

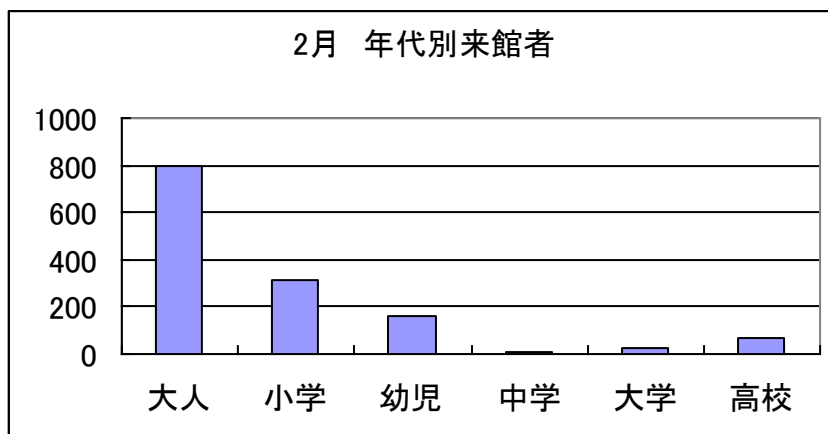
1,368 人

(うち団体 625 人)

市町村別入館者数(人)

	市町村	人数
1	那覇市	434
2	県外	413
3	豊見城市	258
4	沖縄市	54

年代別入館者数(人)



見学のお礼に、「シオマネキのサンバ」をとよみ小学校2年生の皆さんが踊ってくれました!素敵でした!



編集後記

私にとって今回が最後の通信となりました。全部で21回発行した事になりますが、毎月よくやったなあ〜と、少し自分で感心します。これも、ひとえに皆様のご協力があったからだと感謝しています。しかし、内容的にはもう少し工夫が必要だったという反省もしています。この反省は、次の担当者にバトンタッチ。今後ともよろしくお願いいたします。お世話になりました。



宮城 靖子

< 漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会(環境省・沖縄県・那覇市・豊見城市) >

〒901-0241 沖縄県豊見城市字豊見城 982 TEL(098)840-5121 FAX(098)840-5118

開館時間 9:00 ~ 17:00 休館日: 月曜日(月曜日が祝日の場合・翌日)、年末年始(12/29 ~ 1/3)

E-mail: manko_mizudori@ybb.ne.jp

HP: [http:// www.geocities.jp/manko_mizudori/](http://www.geocities.jp/manko_mizudori/)